

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点			
一	問一	ア	りゅうようひつ		各 2 × 5		
		イ	せんきちよくひょう				
		ウ	しゅくいんめい				
		エ	きょえんかんかん				
		オ	きゅうじゅうけん				
	問二	ア	二文字以上を続け書きすること。		内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各 3 × 5	
		イ	石碑を建てる際、石に直に文字を書くこと。				
		ウ	臨書によって手本とする書を学習した上で、その間架結構、用筆、筆意等の、手本のもつ内容を手本を見ないで再現すること。				
		エ	筆、墨、紙、硯のこと。				
		オ	絹地に描いた書画、またはその絹地。				
	問三	ア	書写体		筆写体 もよい。	各 2 × 5	
		イ	箱書				
		ウ	散らし書き				
		エ	乾拓				
		オ	露鋒				
	問四	ア	落成款識		順序は問わない。 2つとも合っているものだけを 正答とする。 内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	2 3 2	
		イ	・筆者の証を示す。 ・作品を引き立てる。				
		ウ	廻文				
		エ	印泥を付ける際	よく練った印泥を印面にむらなく付ける。			
			押印をする際	印矩を使い、水平に下ろして押印する。			
問五	①	処			各 2 × 5		
	②	諸					
	③	問					
	④	事					
	⑤	同					
問六	ア	a	最澄	伝教大師 もよい。	3 2 2 3		
		b	忽披帖				
		c	忽恵帖				
		d	王羲之				
	イ	嵯峨天皇		順序は問わない。	各 3 × 2		
		橘逸勢					

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕			採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問七	ア	一定の大きさにそろえた料紙を、一枚ずつ表側を中にして半分に折り、折り目の外に当たる周辺部分を糊づけして重ねたもの。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
		イ	端正で上品な漢字と繊細で流麗な仮名が見事に調和している。			3
		ウ	おきなかの			5
		エ	以 遠 也 左 支 太 川			7
	問八	ア	字を書くには、心は平正・安穩の状態を貴ぶ。そしてまず用筆に習熟しなければならない。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×2
		イ	漢印には隷書の心持ちがあるので、動きがあり生き生きとした趣がある。			
三	問一	鑑賞の観点	用筆	内容	順序は問わない。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 鑑賞の観点と内容が対応しているものだけを正答とする。	各6×3
		鑑賞の観点	字形	内容		
		鑑賞の観点	特徴・イメージ	内容		
	問二	書跡名	九成宮醴泉銘			2
		表現意図及び表現効果	重厚な「友情」を表現しようとする際には、「顔氏家廟碑」の力感あふれる書風の力強さや壮大さを生かすのに対し、謹厳な「友情」を表現しようとする際には、「九成宮醴泉銘」の凛とした書風の端正さや厳格さを生かす。			10
					30	

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点		
		次	配当時間	学習活動	指導上の留意事項		
三	問一	一	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隸書の特徴を理解する。 ・ 「乙瑛碑」を鑑賞し、特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 扁平な字形や水平な横画による構成、藏鋒による起筆、波磔・波勢を確認させる。 ・ 「乙瑛碑」の力強く堂々とした書風を理解させる。 	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。学習活動と指導上の留意事項が対応しているものだけを正答とする。</p>	40
		二	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「立廟」を半紙に臨書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨書することにより、力強い点画、波磔の力強さ、切れ味のある強い線質、重厚で隙のない構えを感じ取らせる。 ・ リズムに乗りながらも力強い線質を表現できるように取り組ませる。 		
		三	3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「乙瑛碑」をもとに草稿を作成する。 ・ 「体育祭」を半紙に練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「乙瑛碑」の図版や字典から集字したり、部分どうしを合わせて作字したりして草稿を作成させる。 ・ 作成した草稿をもとに、「体育祭」のイメージに合うように表現を工夫させる。 		
		四	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の構成について理解する。 ・ 「体育祭」の清書と自己評価をする。 ・ 清書作品の鑑賞をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の表現効果をより高めるために、紙面と文字の調和を図り、文字の配置と余白の生かし方、文字の大小、字間のあけ方などに配慮する必要があることを理解させる。 ・ 隸書の特徴を理解して、自己の作品と比較しながら表現を工夫し、全体の構成に気をつけて清書させる。 ・ お互いの作品を鑑賞し、言語活動を通して、感じたことを言葉で表現し、考えを伝えあい深めさせる。 		
	問二	<p>次の点に留意して書いていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古典の特徴を捉えて表現していること。 ○ 文字のバランス構成を適切に表現していること。 				10	
四		<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字仮名交じりの書、漢字の書及び仮名の書、さらに、生徒の作品を含む身の回りの書などについて、幅広く関心を抱けるようにすること。 ・ 生徒が感じた第一印象を、自らの言葉で表現するだけでなく、その印象をもたらす根拠について考えることができるよう指導すること。 ・ 言語活動を通して、感じたことを言葉で表現したり、考えを伝え合い深めたりすること。 ・ 生徒の関心や学習状況に応じて、自身の作品や他者の作品を鑑賞の対象とし、表現活動との関連を図った指導を工夫すること。 			<p>2つ書かれていればよい。</p> <p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。</p>	20	